

DATA FILE



斜方晶系

名前	ZOISITE(ゾイサイト)/灰れん石
化学組成	$\text{Ca}_2\text{Al}_3\text{Si}_3\text{O}_{12}(\text{OH})$
色	白色、ピンク色、赤色、青紫色など
光沢	ガラス光沢
蛍光	なし
条痕	白色
劈開	完全
断面	貝殻状、不規則
硬度	6.5 ~ 7
比重	3.2 ~ 3.4

かい

せき

灰れん石

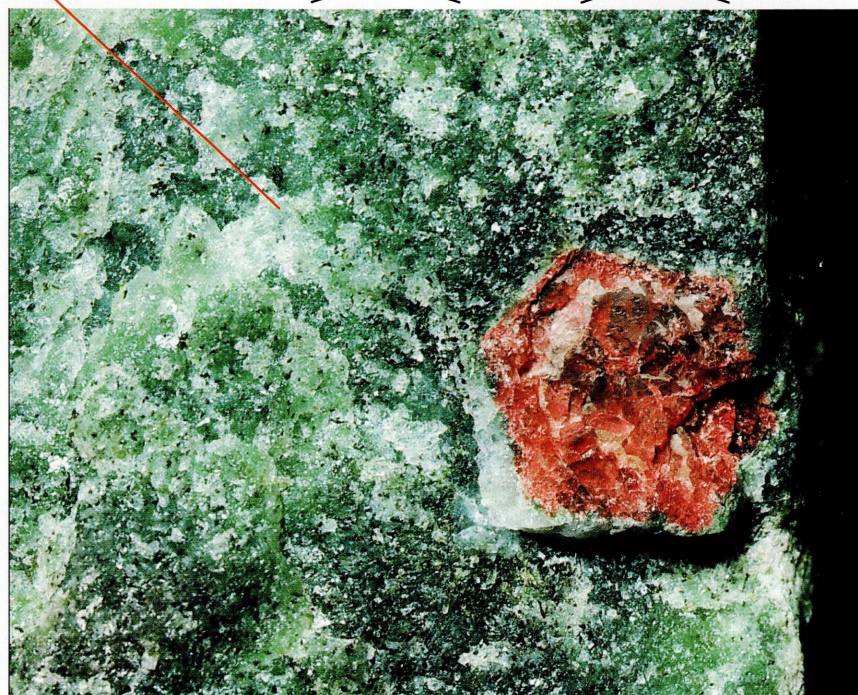
ZOISITE

純粋なものは白色だが、微量成分によりさまざまな色であられる。

単斜灰れん石と同質異像（多形）の関係にあたる。

赤いルビーとともに産出した緑色の灰れん石。タンザニア産。

劈開は完全で、ハンマーでたたくと貝殻状や不規則な断面を示す。



素焼きの陶板にこすりつけると白色の条痕が残る。

ガラスのような光沢を持つ。

緑簾石の一種

灰れん石は緑簾石のなかまで、主に広域変成岩やエクロジャイト（榴輝岩）中に生成する。カルシウム、アルミニウム、ケイ素、酸素、水素を含み、純粋なものは白色だが、その他の微量成分によってピンク色や赤色、青紫色などでもあらわれる。外観は、角柱状の微細な結晶が集まって、大きな塊を形成することが多い。ちなみに英名の「ゾイサイト」は、スロベニアの貴族で鉱物学者のジグムント・ゾイス（1747～1819年）にちなんで名づけられた。

力
灰
れ
ん
石



◀「桃簾石」と呼ばれるピンク色の灰れん石。イタリア・トリノ産。



▲長方形にカットされた灰れん石。

◀タンザニアで産する青紫色の灰れん石は「タンザナイト」と呼ばれる。

微量成分による発色

灰れん石のなかで、微量のマンガンによりピンク色や赤色になったものは「桃簾石」、微量のバナジウムにより青紫色になったものは「タンザナイト」と呼ばれる。タンザナイトは宝石商のティファニーが名づけた宝石名であり、現在のところタンザニア以外では見つからない。そのほか、微量のクロムを含む灰れん石は緑色になり、ルビーをとまって産することがある。ルビーはコランダム（剛玉）の宝石名のひとつで、クロムを含むことで赤色に発色したものだ。

主な産地



▼ルビーを含む灰れん石。タンザニア産。

